

傷あと、ケロイド

傷がある程度深くなると、たとえ形成外科医が治療しても傷あとは残ります。

見た目の問題だけでなく、ひきつれて関節を動かしづらくなることもあります。

現代の医学では傷あとを消す事はできませんが、傷あとを目立たなくすることはできます。

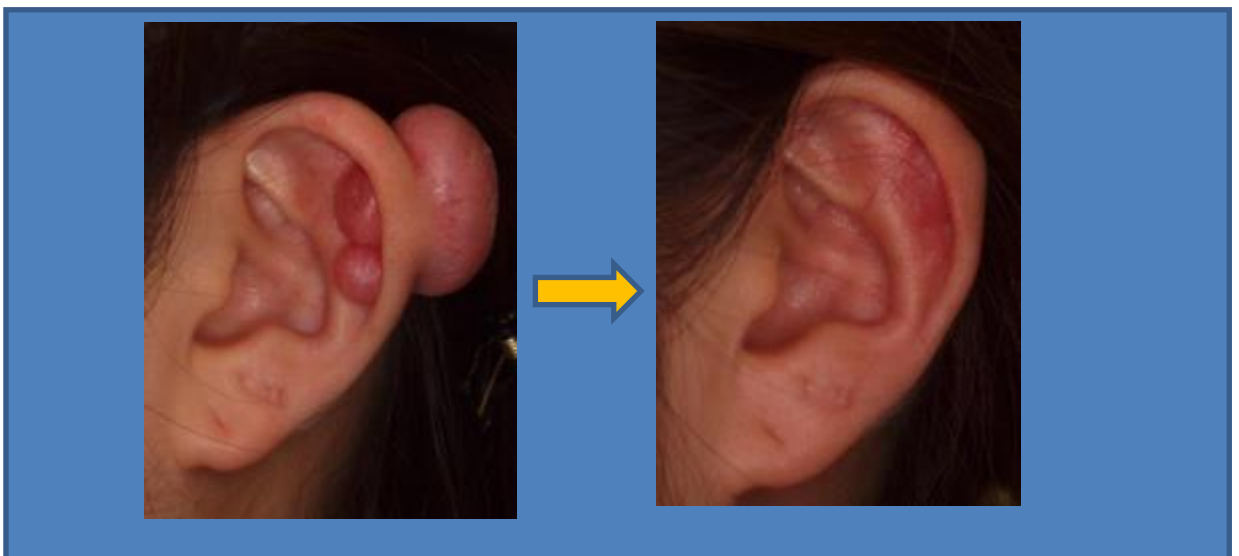
また、体質によってはケロイド(傷あとが赤く盛り上がった状態)になることがあります。この場合も治療を行います。

治療法としては、以下のようなものがあります。

- ・圧迫(シリコンジェルシート、スポンジなど)
- ・ステロイドテープ(ドレニゾンテープ、フルベアンテープ)
- ・ステロイド注射(ケナコルト)
- ・飲み薬(リザベン)
- ・手術
- ・電子線治療

まず、手術以外の治療法を試すことが多いです。

それでも効果が無い場合は手術を行いますが、手術だけではしばしば再発します。



瘢痕拘縮形成術(はんこんこうしゅくけいせいじゅつ)

傷跡を切除し、ていねいに縫い直します。
傷がつっぱっている(拘縮している)場合には、特殊な方法(Z形成術、W形成術など)で拘縮を解除します。
皮膚が不足している場合は、植皮(皮膚移植)などを行います。



巻き爪

爪が食い込んで指が痛くなることがあります。原因としては、水虫、深爪、きつい靴などが挙げられます。

(1) ワイヤーによる爪矯正

ワイヤーが元の形に戻ろうとする力を利用し、じょじょに爪を平らにします。時間はかかりますが、痛みはほとんどありません。



爪をワイヤーで矯正します。開始直後から痛みが軽くなります。

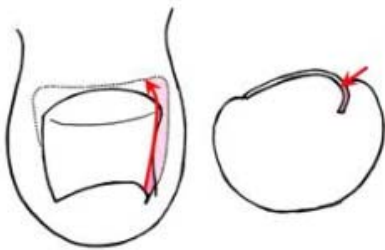


矯正終了時です。痛みもなくなります。

(2) フェノール法

食い込んでいる爪の端を抜き、さらに爪の根元を薬品で処理します。少し爪の幅が細くなりますが、ほとんど見た目は変わりません。

確実性は高いですが、局所麻酔が必要なのが欠点です。それでも昔ながらの手術と比較すれば痛みははるかに少ないです。



爪の食い込んだ部分を幅2～3mmほど抜きます。



麻酔して、爪を抜きます。



フェノールで爪母を処理します。



傷は2～3週間で治ります。

(3) 手術療法

楔状に食い込んでいる爪と皮膚を一緒に切除してしまい、縫合して治療します。再発は少なく、見た目がきれいになりますが、疼痛はあります。